

大村 英昭教授略歴・主要業績

— 略 歴 —

学 歴

- 1961年 3月 大阪府立大手前高等学校卒業
- 1961年 4月 京都大学文学部哲学科入学
- 1965年 3月 京都大学文学部哲学科卒業
- 1965年 4月 京都大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻入学
- 1967年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了（文学修士）
- 1967年 4月 京都大学大学院文学研究科博士課程社会学専攻入学
- 1970年 3月 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
- 2007年 3月 関西学院大学大学院にて博士学位（社会学）取得

職 歴

- 1970年 4月 京都大学文学部助手
- 1972年10月 神戸商科大学専任講師（「社会学」担当、1974年 9月まで）
- 1974年10月 神戸商科大学助教授（「社会学」担当、1977年 3月まで）
- 1977年 4月 大阪大学教養部助教授（「社会学」担当、1986年 2月まで）
- 1982年 4月 大阪大学大学院人間科学研究科併任（「文化環境論」担当、1986年 2月まで）
- 1986年 3月 大阪大学教養部教授、同大学院人間科学研究科併任（1994年 3月まで）
- 1987年 4月 放送大学客員教授（「社会学入門」担当 1996年 3月まで）
- 1994年 4月 大阪大学人間科学部教授
- 1994年 4月 大阪大学大学院人間科学研究科教授
- 2000年 3月 大阪大学名誉教授
- 2000年 4月 関西学院大学社会学部教授、同大学院社会学研究科教授（2011年 3月まで）

— 学会及び社会における活動等 —

- 1987年 4月 日本犯罪社会学会理事（1993年まで）
- 1988年 4月 日本社会学会研究活動委員（1994年まで）
- 1990年 4月 日本宗教学会評議員、同理事（現在、常務理事）
- 1994年 4月 学位授与機構審査会専門委員（1997年まで）
- 1994年 4月 財団法人国際宗教研究所理事（現在に至る）
- 1996年 4月 毎日放送番組審議委員（2008年 3月まで）
- 2000年 4月 日本社会学会庶務理事（2003年 3月まで）
- 2001年 4月 国立大阪病院（現 独立行政法人大阪医療センター）倫理委員（現在に至る）
- 2003年10月 関西社会学会会長（2006年10月まで）
- 2006年 4月 「現代における宗教の役割研究会」（通称“コルモス”）会長（現在に至る）

— 著 書 —

逸脱の社会学	1979年	新曜社
非行の社会学	1980年	世界思想社
日常世界の虚と実	1983年	有斐閣
ポストモダンの親鸞	1990年	同朋舎
宗教時代への挑戦	1993年	春秋社
現代社会と宗教——宗教意識の変容	1996年	岩波書店
宗教のこれから——日本仏教がもつ可能性	1996年	有斐閣
日本人の心の習慣——鎮めの文化論	1997年	日本放送出版協会
非行のリアリティ——「普通」の男子の生きづらさ	2002年	世界思想社
臨床仏教学のすすめ	2003年	世界思想社
上手な逝き方	2010年	集英社

— 編 著 —

社会学のあゆみ	1979年	有斐閣
生駒の神々	1985年	創元社
リーディングス 日本の社会学 13 社会病理	1986年	東京大学出版会
社会学入門	1988年	日本放送出版協会
現代人の宗教	1988年	有斐閣
ターミナル家族——家族のゆらぎと新たな起点	1993年	NTT出版
文明としてのネットワーク	1994年	NTT出版
ファミリズムの再発見	1995年	世界思想社
蓮如——転換期の宗教者	1997年	小学館
臨床社会学のすすめ	2000年	有斐閣
臨床社会学を学ぶ人のために	2000年	世界思想社
臨床社会学の実践	2001年	有斐閣
生命倫理における宗教とスピリチュアリティ	2010年	晃洋書房

— 論 文 —

逸脱行動論の検討	1969年	「ソシオロジ」第15巻第1号
アスピレーションとアノミー	1972年	「社会学評論」第23巻第1号
闘争理論の学際的検討	1978年	「社会学」日本評論社
スティグマとカリスマ	1979年	「現代社会学」第6巻第2号 講談社
ドラマ論的犯罪社会学を目指して	1984年	「犯罪社会学研究」第9巻 立花書房
劇場犯罪の出現——グリコ・森永事件にみる多層なリアリティ	1985年	「中央公論」4月号
ゴッフマンにおける〈ダブル・ライフ〉のテーマ	1985年	「現代社会学」第11巻第1号 アカデミア出版
社会現象としての宗教	1990年	「講座・転換期における人間」 第9巻、岩波書店
宗教集団としての家族	1992年	「シリーズ・変貌する家族」 第6巻、岩波書店
科学と宗教のシンクレティズム	1993年	「講座・宗教と科学」 第3巻、岩波書店
撤退の思想——続・鎮めの文化論	1993年	「21世紀の高齢者文化」 第一法規
死の社会学——フレーム分析に向けて	1996年	「講座・現代社会学」 第9巻、岩波書店
宗教社会学の現状と課題——プロ宗教の終焉	1996年	「講座・現代社会学」 第7巻、岩波書店
『鎮めの文化』としてのスポーツ	2004年	「スポーツ社会学研究」 第12巻、法政大学出版局
幸福と不幸の臨床社会学	2004年	「先端社会研究」 創刊号、関西学院大学出版会
「脱ヒューマニズム」時代のスピリチュアリティ——「特定宗教」と「拡散宗教」のディレンマ	2006年	「先端社会研究」 第4号、関西学院大学出版会
少子高齢化社会のなかのペット——ペットとネオ・ファミリーズム——	2008年	ヒトと動物の関係学 第3巻、岩波書店